

## 2023年12月 JICA 月次レポート

### 生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

#### <活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. 対象校間の学び合い交流会後のフォローアップ
4. 第6回オンライン会議の実施
5. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）
6. 協力団体（SORAKとVOTU）との事業の持続計画

#### 1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では12月18日にチバリンガ準郡のLuna FMより1時間のラジオトークショーを実施し、長期休暇中、子どもたちの月経時の衛生管理の問題に積極的に協力するように保護者に呼びかけた。

また、子どもたちに対しては学校の再開までの期間、健康や生活に十分注意することに加え、長期休暇中も怠けることなく学校で得た布ナプキン作製などの知識を活用するように伝えた。



ワキソ県では12月20日19時～20時にTiger FMより1時間のトークショーを実施した。SORAK代表は事業の概要やこれまでの成果を伝えた後に、長期休暇中の子どもたちに対して保護者の助けを得ながら自己管理をきちんと行うように呼びかけた。また、保護者に対しては休暇中の子どもたちに月経時の衛生管理の必要性を再認識させ、望まぬ妊娠を防ぐよう、家庭内で話す機会を持つことを奨励した。

ブタンバラ県では12月5日にVoice of Butende、Voice of Kikambweより1回ずつ、計2回のラジオトークショーを実施した。布ナプキンが女子生徒や地域住民にもたらした影響について調査し、結果は以下であった。

- 布ナプキンの導入により退学者数が減少した。

- 布ナプキンは再利用可能であり長持ちするため、節約になる。
- 布ナプキンは環境に優しく、環境汚染を防ぐことができる。

保護者たちが活動を行っているチームに対し非常に感謝をしていたことがこのセッションの中で分かった。また、Happy-Pad プロモーションセンターでトレーニングを受けている受講者たちも事業の活動に対する感謝の気持ちをラジオを通して発信した。



ブタンバラ県スタッフと地域住民



ブタンバラ県スタッフが布ナプキンの利点について説明している。



Voice of Kikambwe でのブタンバラ県チーム



Voice of Butende でのブタンバラ県チーム

## 2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県 : Luna FM (1日6回)
- ワキソ県 : Voice Kiryagonja (1日10回)
- ブタンバラ県 : Voice of Butende (10回) 、Voice of Kikambwe (10回) (各早朝5回、夜5回)

### 3. 対象校間の学び合い交流会後のフォローアップ

ムベンデ県では対象校間の学び合い交流会の中で長期休暇中の布ナプキン作製トレーニングの継続が目標として挙げられていたため、現状を把握すべくフォローアップ訪問を実施した。今回訪問した学校は St Mary's Gwanika 初等学校、Dyangoma 初等学校、Kasasa 初等学校の 3 校であり、トレーニングは 1 月の 2 週目以降から再開していく旨の報告を受けた。

ワキソ県でも Ssayi Bright 初等学校、Sanga 初等学校、Kitungwa 初等学校それぞれの教員より 1 月の 2 週目から布ナプキン作製を再開していくとの知らせがあった。

ブタンバラ県では、交流会後にレビューを実施したが、すでに長期休暇中であったため多くの生徒は自宅に帰宅しており、布ナプキントレーニングを希望する生徒に対してはプロモーションセンターに招待し、トレーニングを実施した。

### 4. 第 6 回オンライン会議の実施

12 月 1 日に第 6 回オンライン会議を実施した。主な議題は「学校内でのジェンダー不平等について」であり、様々な団体から宗教指導者、教員、事業代表、プロジェクトオフィサー、保護者など合計で 23 名の参加者が会議に参加した。

参加者が特に興味を持った議題は「STEM(科学、技術、工学、数学) 教育における男女平等」、「教育を受ける機会の平等 (教育の機会の不平等に加えて、STEM 分野においては、更に男女間の不平等が深刻化することが課題であるが、STEM 教育を重視している点が非常に興味深い)」、「ジェンダー不平等の解決策」であった。

**LET'S TALK**  
**A DISCUSSION ABOUT GENDER INEQUALITIES IN SCHOOLS**

Underlying Causes , Effects/Outcomes , Possible Interventions

**Keynote Speakers:**

- MUHAMMAD Kekooza**  
Lecturer  
University of Somalia
- GLORIA Nassazi**  
Practicing Advocate
- Fatinah Nantumbwe**  
Project Manager at One  
Project Foundation (OPF)

01 December, 2023 03:00 PM – 04:30 PM EAST AFRICA TIME

JOIN CONVERSATION ON ZOOM: <https://us06web.zoom.us/j/85299269468>  
Meeting ID: 852 9926 9468

Powered by:  
VOTU, Global Bridge Network, NOKAR, ONE PROJECT FOUNDATION

Until we get equality in education, we won't have an equal society  
Martin Luther King, Jr



### 5. Happy-Pad プロモーションセンター (ブタンバラ県)

長期休暇中のため、プロモーションセンターを定期的に訪問する生徒が多く、12 月はこれまでで最も忙しい月となった。また、頻繁に通った生徒も多く、生産数も増加したが、トレーニングを受講していた者の多くはクリスマス、年末年始に向けて帰宅したため、12 月 4 週目には生徒数も生産数も落ち着いた。12 月中には 38 名に対



してトレーニングを行い、ナプキンの生産数は合計 672 だった。ナプキンの生産数が高かったのは、ナプキン作りの経験者たちが頻りに訪れ、楽しんで取り組んだためである。

12 月は 672 枚のナプキンを生産、50 枚のナプキンを販売し、200 枚をトレーニングの受講者たちに地域への広報を兼ねたサンプルとして配布した。(2023 年 3 月からの累計／生産 2,228 枚、寄付 350 枚、販売 552 枚)

以下の写真は 12 月の平日に布ナプキン作成トレーニングに参加した生徒たちの写真である



課題

- 12月4週目には年末年始の時期となり生産数が上がらなかったこと。
- プロモーションセンターと家の距離が遠く、徒歩で通うのが難しい生徒がいたこと
- 朝に来て夕方に帰るプロモーションセンターでの受講生の中には昼食が出ないことを不満に思う生徒がいたこと。
- トレーニング受講生の数が増えるにつれてミシンの数が不足していたこと。

#### 教訓

- 長期休暇中はトレーニングを受けるために様々な学校から受講生たちが来ていた。
- 地域住民たちは Happy-Pad に関心を持ち始めている。

#### 提案

- プロモーションセンターに、より多くのミシンを設置するべきである。
- 受講生から昼食を提供すべきであるとの提案があった。

### 6. 協力団体との事業の持続計画

#### ■ ムベンデ県・ワキソ県

SORAK は今後も関連プロジェクトの実施・強化の継続に加え、対象校とも協力を継続し、持続を可能にしていく。詳細は以下である。

- 対象校の進捗状況や活動の様子を把握するために定期的なモニタリングを実施する。
- 月経時の衛生管理、女子生徒の教育、布ナプキンについて今後もラジオトークショーやラジオスポットメッセージの放送を通して継続的に地域住民に訴えかけていく。
- 対象校は、女子生徒が生理中に使用するための洗面所を設置しているが、これは女子生徒にとって必要なことであり、学校コミュニティ全体から支持されているため、今後も続くだろう。
- ナプキン作成用ミシンを1台しか提供していなかったが、より多くの子ども達へトレーニングを実施したり、学校外のコミュニティへ有料で実施するなど、他の活動で活用するためにミシンを買い足した。
- ウガンダの教育政策でも勧められている毎週のガイダンスやカウンセリングセッションなど、事業を通して導入した学校の定期的な活動を教員、学校経営者、保護者により継続していく。
- SORAK は米国 Rotary clubs から水関連事業の支援を受けており、10,000 リットルのタンクを28校に提供する予定である（ムベンデ県のみ）。月経時の衛生管理の実践には水も必須である故、当事業が終了した後も引き続き月経時の衛生管理に関連した活動を継続予定である。
- 布ナプキン作製に必要な材料や石鹼など月経時の衛生管理に必要な備品購入用の資金を保護者から募ることに各学校運営委員は同意しており、資金が集まれば活動の継続が可能となる。
- ワキソ県においては性差別から生じる暴力行為等を抑止する事業実施を検討しているが、現在は学校や地域における月経時の衛生管理を優先的に取り組んでいく。

#### ■ ブタンバラ県

同県における事業の持続に向けて議論し、決定した事項は以下である。

- 対象校の活動状況を把握するために今後もモニタリングを頻繁に行う。

- 今後も多数のトレーナーをプロモーションセンターに配置し、受講生がナプキン作製を確実に学べるようにする。
- 住民たちに Happy Pad の魅力を伝えていくためにラジトークショーやラジオスポットメッセージの放送、広告を今後も継続して行う。
- Happy Pad のサンプルを無料で配布し宣伝することで、地域住民の購入意欲を高める。